



本校の授業改善に向けた視点

指導内容、方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究・研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○一斉授業だけでなく、少人数集団による学習や課題別学習など単元や教材に応じた柔軟で可変的な授業を工夫する。 ○算数担当教諭や学力向上支援講師の特性を活用し、個に応じた指導を推進する。 ○東京ベーシック・ドリルを授業開始時等に活用していく。 ○より分かりやすい授業を目指し、ICT（タブレット）の活用を推進する。 ○中学校との連携の一環として、中学生が各学年で学習指導を行うリトルティーチャー活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間割の編成を工夫し、時期によって授業時間数を増やし、教科時数を設定する。授業時間、授業時数の確保を行う。 ○朝読書の時間を週に1回以上設定するとともに、読書の時間の充実を図る。 ○地域図書館の団体貸し出しを利用し、読書資料の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の基盤となる国語の力と、その基礎になる言語能力を高めるために、言語活動の充実と読書活動の充実を図る。 ○校内研究として「体育」の研究を進め、体力向上につなげていく。 ○ICT支援員が講師となり、教員と児童が率先してタブレットを活用していけるよう計画的に研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団の中で話すこと、聞くことを通して自分の考えが深まったかを互いに伝え合う中で、学び合う楽しさを全教科で味わわせる。 ○評価規準を作成し、評価計画に即して評価を実施する。 ○毎時間の授業のねらいを明確にし、指導と評価の一体化を図る。 ○授業実践結果を把握するために、調査問題やアンケートを用いて検証する。 ○加点的な見方に立つ、肯定的な評価に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の自然環境、人材等を生かした体験的な学習の充実を図る。 ○地域の方々にも学校評価に加わっていただき、そのニーズを踏まえた授業改善に取り組む。 ○小中連携を継続し、リトルティーチャーなど互いに協力を深める中で、小中連携教育を推進し、地域の教育力を高める手だてとしていく。 ○学校便り等を通して、早寝早起き、朝食の大切さ等、基本的な生活習慣の確立に向けた啓発活動を実施する。